



折り紙ヒコーキに 思いを乗せて

千

字 万 感

日本航空株式会社
中部地区支配人 棚橋 伸

日本航空は2016年に、次世代育成プログラム「JAL空育^{そらいく}®」に取り組むことを宣言し、2020年までに100万人の子どもたちに受講してもらうことを目指しています。「飛行機を通じて『自分の未来』を考える」「交流を通じて『日本・世界の未来』を考える」「環境・宇宙を通じて『地球の未来』を考える」をテーマにし、パイロットや客室乗務員、整備士などが制服姿で各地の学校を訪れて、コックピットから撮影された北極海の氷やアラスカの氷河の写真を子どもたちに見せて地球環境の変化を伝えたり、航空会社の仕事を紹介したりするなど、様々なコンテンツがあります。

「JAL折り紙ヒコーキ教室」もその一つです。この教室は折り紙ヒコーキ協会と連携しながら実施しており、指導員の資格を持つ社員約1,500人が、ボランティアで子どもたちに折り紙ヒコーキの作り方や飛ばし方を教えます。昨年度は369回とほぼ毎日開催し、約3万3,000人にご参加頂きました。中部地区でも、セントレア、あいち航空ミュージアム、常滑市の小学校などで開催しました。

ローリング・ピッチング・ヨーイングという乗り物の動きと原理は、大型ジェット機も紙ヒコーキも同じです。紙ヒコーキを自分で折り、微修正を繰り返しながら、熱く、夢中になって飛ばす子どもたちの姿を見ると、ご家族や指導員も思わず笑顔になります。

さらに滞空時間の長さを争う「JAL折り紙ヒコーキ全国大会」も各地で開催しています。2018年2月に中部地区予選を愛知県で開催しました。2020年には世界大会を予定しています。

また、これら「JAL空育^{そらいく}®」の取り組みの一環として、10月にセントレアにオープンした複合商業施設「フライト・オブ・ドリームズ」では、折り紙ヒコーキを飛ばすと照明や光が反応する最新技術を使ったアトラクションや、航空会社の仕事をヴァーチャルリアリティで体験できるコンテンツをサポートします。

私たちの取り組みはまだまだ小さなものですが、これをきっかけに少しでも多くの子どもたちが、アジアNo.1である中部地区の航空宇宙産業の将来を担う道を選んでくれることを願ってやみません。